キャラクター名
ステラ・フィールド

プレイヤー名

メインクラス	アコライト	**Lv.1:**		**レベル**	2
サポートクラス	バード	**Lv.1:**	バード	**性別**	女
称号クラス				**年齢**	19
種族	フィルボル			**境遇**	紛失
出自（効果）	魔術師			**目標**	友情

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	6	8	9	11	8	13	13
ボーナス	2	2	3	3	2	4	4
クラス修正	0	1	0	1	1	2	1
他修正							
能力値	2	3	3	4	3	6	5

HP	32
MP	44
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	素手	至近	0	0	0	0	0	0	0
左手									
頭部	ハット					1			
胴部	ローブ					2			
補助	マント					1			
装身具	聖印								
能力値			3	0	3	0	6	6	7
スキル									
その他									
総計(右)			3	0	3	4	6	6	7 m
総計(左)									
総計(両)									
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	3			3	+ 2 d
トラップ解除	3			3	+ 2 d
危険感知	3			3	+ 2 d
エネミー識別	4			4	+ 2 d
アイテム鑑定	4			4	+ 2 d
魔術判定	4			4	+ 2 d
呪歌判定	6			6	+ 2 d
錬金術判定					+ d

所持品	
冒険者セット	
MPポーション	
ベルトポーチ	
MPポーション	

現在重量： 7		
最大重量： 8	所持金： 222	預金・借金：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ラッキースター	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果： 作成時に幸運基本値+3								
プロテクション	2	3	DR直後	20m	単体	自動成功	1/MP	
効果： 対象が受ける予定のダメージに-[SLd]								
キュア	1	5	メジャー	20m	単体	魔術判定		
効果： 対象が受けているバッドステータスを全て回復								
ヒール	1	4	メジャー	20m	単体	魔術判定		
効果： 対象の【HP】を［3d+CL*3］点回復								
グレープバイン	1	-	ﾒｼﾞｬｰｱｸｼｮﾝ	-	自身	精神		
効果： 情報収集を【精神】判定で行う。その【精神】判定に+1dするあｔ								
ジョイフルジョイフル	2	7	ﾒｼﾞｬｰｱｸｼｮﾝ	20m	単体※	呪歌判定	SL/ｼｰﾝ	
効果： 行動済のキャラクターに有効。対象を未行動にする								
マジックノウリッジ	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果： 魔術に関する事柄について知っているかどうかの【知力】判定に+1dする								
インボーク	1	6	メジャー	20m	単体	魔術判定		
効果： 対象の回避判定に+1d。効果はシーン終了まで持続。								
ファーストエイド	1	-	メジャー	至近	単体	器用		
効果 :対象が戦闘不能の時、難易度10の【器用】判定を行う。成功したら対象の戦闘不能を回復し、【HP】を1とする。対象は行動済みになる。								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

天真爛漫、明るく無邪気な性格である彼女は、フィルボルでありながら魔術の研究にのめり込む両親を持っていた。

ある日いつものように両親の魔術実験の被検体にされるも、実験は失敗。両親は死亡し――彼女は幸運にも生き残った。何がどう作用したのか、彼女から友情という概念がなくなってしまうという後遺症を遺して。
今まで友人と呼んでいた人達。なぜそう思っていたのかが分からない。人が言う友人とは何なのか、彼女はそれさえも理解できなくなってしまった。あの日まで、確かに自分も理解していたはずなのに。

彼女は友人が多かった。そして彼女は友人達の中で特に背が低く、特に可愛がられていた。
彼女は生来食いしん坊でもあった。見ていて気持ちが良いくらい美味しそうに、勢いよくものを食べるのである。故に彼女の友人達は彼女に餌付けすることを好んだ。
――彼女が友人を友人と思わなくなってからも。

彼女の「知り合い」は、彼女の「友人」だと自称する。そして彼らは彼女に食べ物を与える。
彼女の中でその二つはやがて等号で結ばれた。
そう、「食べ物をくれる人」＝「友人」だと理解するに至ったのである。

友人が何か分からなくとも、友人は大切、それは覚えている。
故に彼女にとって大切な人は食べ物をくれる人であり、食べ物をくれなくなった人は最早大切ではない。
大切ではないのならば――何をしても、構わないよね？

――――こうして彼女から裏切りという概念すらもなくなった。